
[成果情報名] 高品質・高収益な覆い下夏茶生産に好適な被覆方法

[要約] 新芽の1.5葉期から14日間程度、覆い下栽培することにより高品質かつ高収益な夏茶（二番茶、三番茶）を生産できる。

[キーワード] 夏茶、覆い下栽培、被覆開始時期、被覆期間

[担当部署] 八女分場・茶チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象作目] 茶

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

玉露栽培では乗用型管理機の利用を前提とした省力被覆棚の設置を推進している。玉露生産者の収益性を高めるため、二番茶においても被覆による品質向上が期待されている。

そこで、高品質かつ高収益な覆い下夏茶生産に好適な被覆開始時期及び被覆期間を明らかにする。
(要望機関名：八女普 (H18))

[成果の内容・特徴]

- 1．被覆資材を用いて夏茶（二、三番茶）を覆い下栽培する場合、被覆開始が早いほど遊離アミノ酸含量が高く官能評価が優れる（図1、一部データ略）。
- 2．覆い下茶の特徴である香気成分のジメチルスルフィド（青海苔様の香り）含量は、1.5葉期までに被覆すれば高くなる傾向を示す（データ略）。
- 3．粗収益（市場評価額×荒茶収量 - 加工経費）は、被覆を1.5葉期から開始すると高い傾向がみられる（図1）。
- 4．1.5葉期に被覆を開始した場合、被覆期間が長くなるにつれ生葉収量は増加するが、遊離アミノ酸含量は低下する。14日間程度の被覆で、遊離アミノ酸含量を2,500mg/100g以上に維持できる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．夏茶の高品質・高収益化技術として活用できる。
- 2．被覆資材の遮光率は90～95%である。
- 3．一、二、三番茶を連続して長期間被覆すると、樹勢が低下する可能性がある。

[具体的データ]

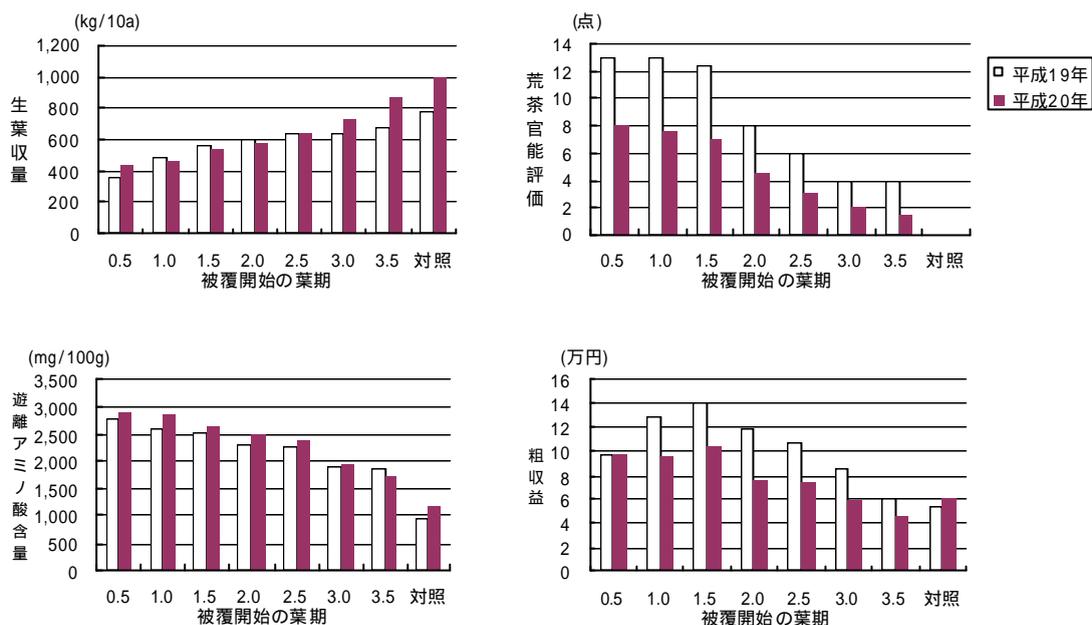


図1 二番茶における被覆開始期の相違と収量、品質及び収益性

- 注) 1. 官能評価は普通審査法により、対照区を基準とした加減点で示した。
 2. 粗収益 = 市場評価額 × 荒茶収量 - 加工経費 (100円 × 生葉収量)
 3. 対照は無被覆 (露地) 栽培。

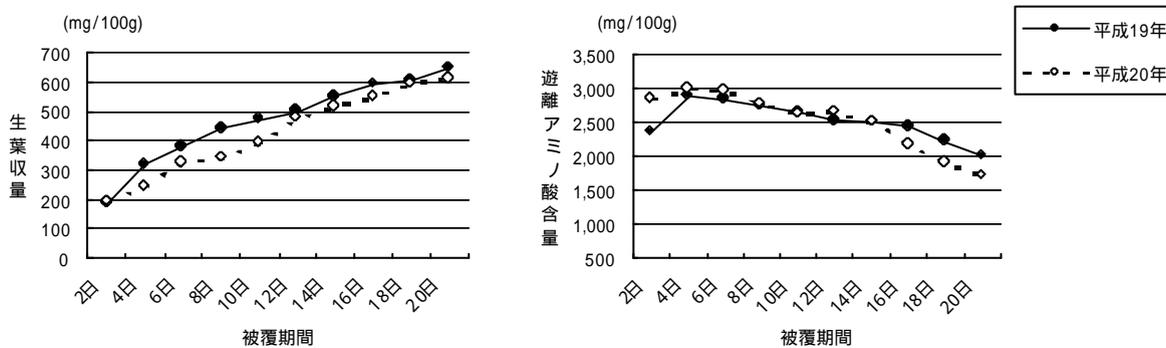


図2 二番茶を1.5葉期から被覆した期間と生葉収量、遊離アミノ酸含有量の関係

[その他]

研究課題名：高級茶ドリンク需要に応える高級覆い下夏茶生産体系の開発
 予算区分：国庫受託 (実用技術開発)
 研究期間：平成20年度 (平成18~20年)
 研究担当者：堺田輝貴、仁田原寿一、吉岡哲也、中園健太郎